

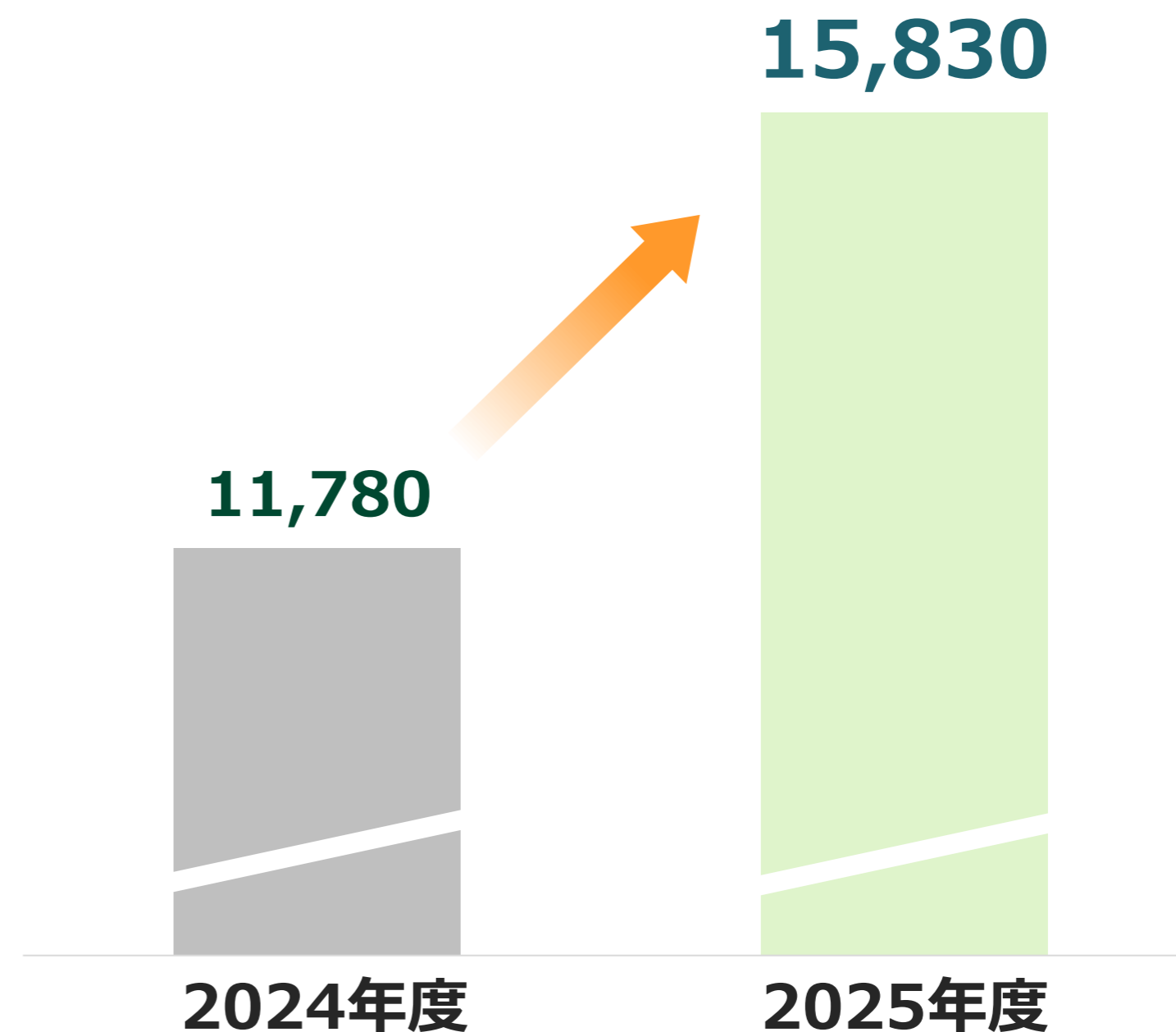
# 2026年度の経営課題と取組方針

2026年6月26日

# 2025年度業績

(億円)	2025年度		
	実績	前年比	目標比
連結業務純益	23,309	+6,116	+2,809
与信関係費用	▲3,884	▲439	▲884
経常利益	23,034	+5,839	+1,934
親会社株主に 帰属する 当期純利益	15,830	+4,050	+830

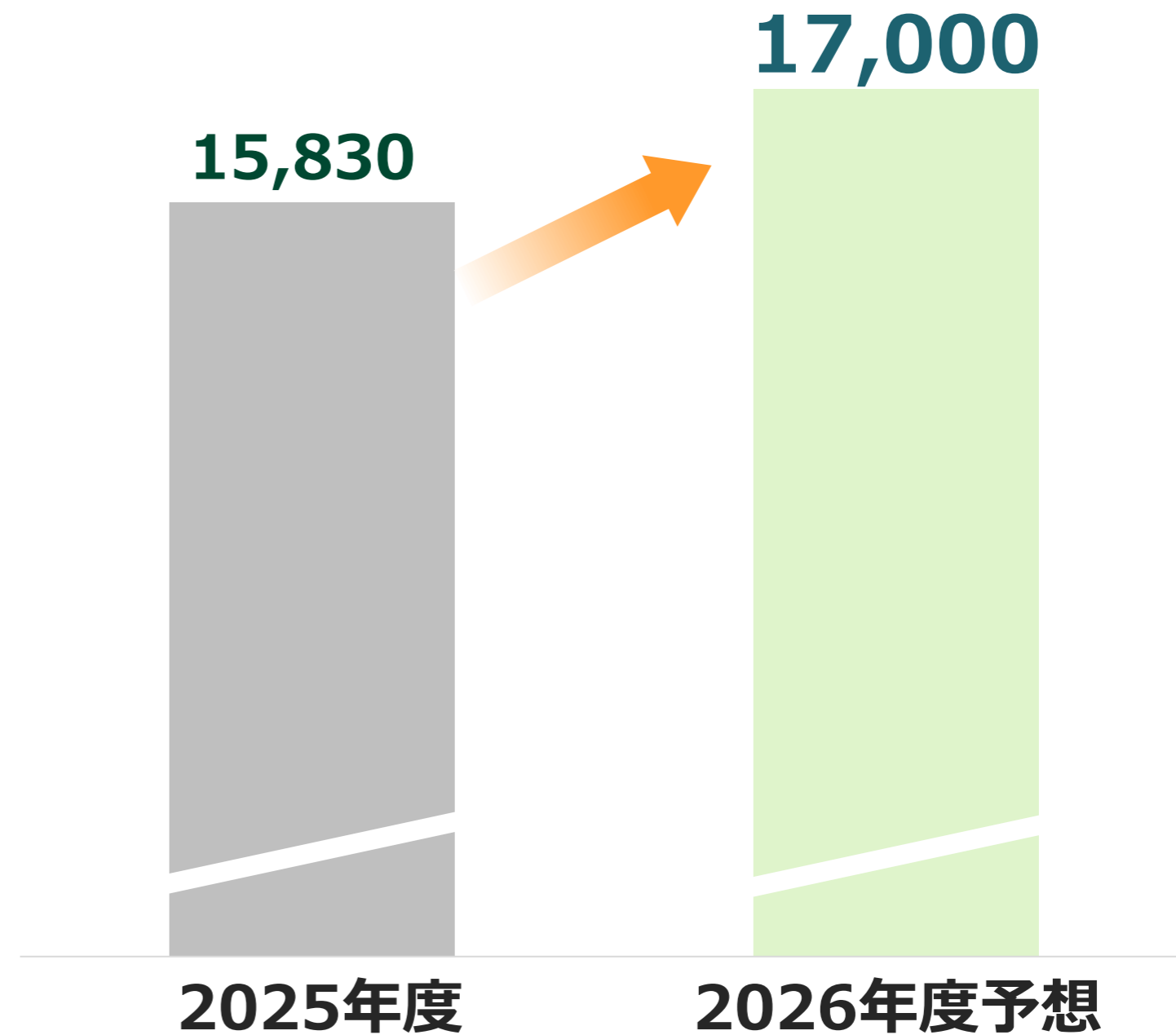
## 親会社株主に帰属する当期純利益



# 2026年度業績目標

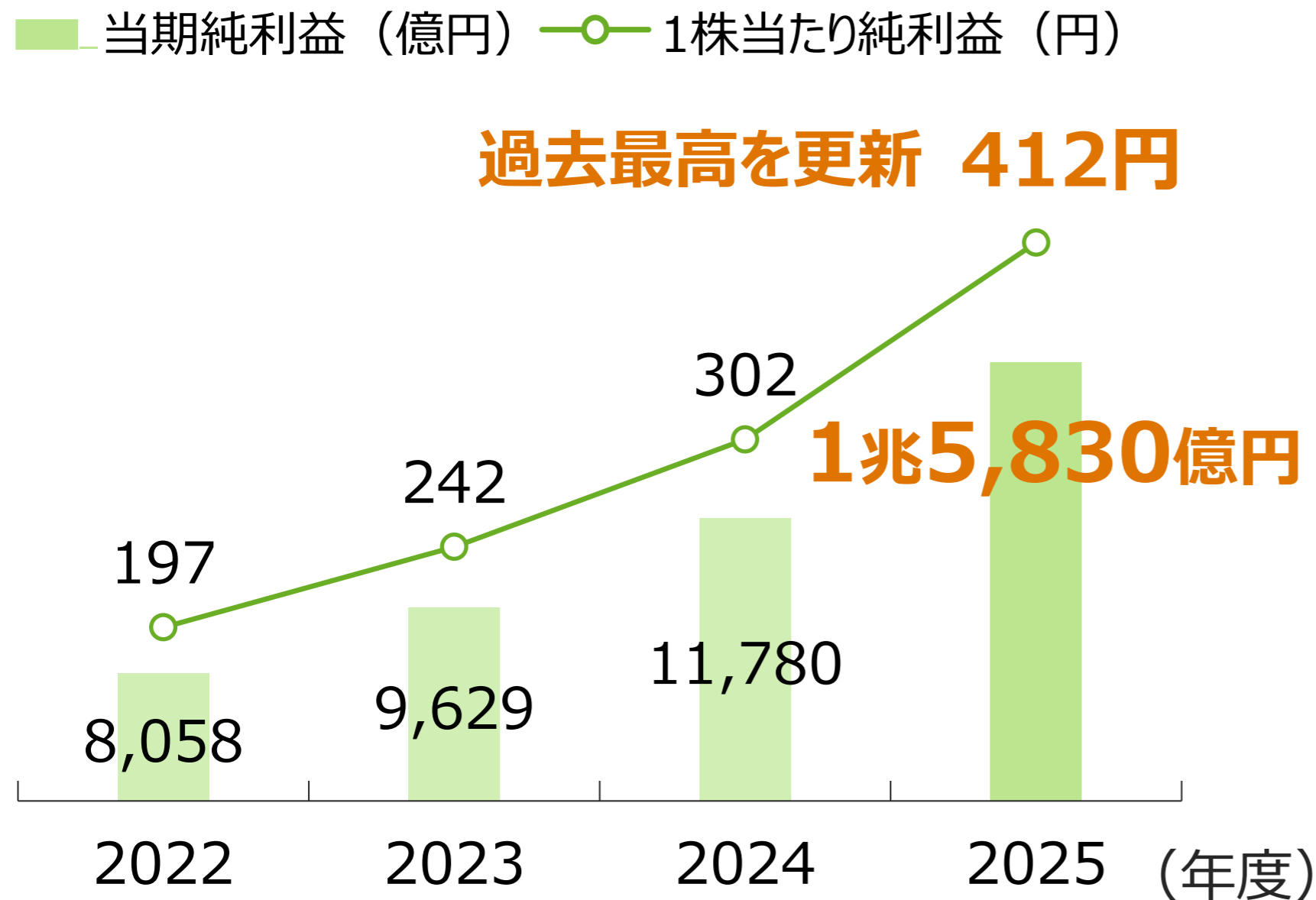
(億円)	2025年度 実績	2026年度 目標	前年比
連結業務純益	23,309	24,000	+691
与信関係費用	▲3,884	▲3,400	△484
経常利益	23,034	23,900	+866
親会社株主に 帰属する 当期純利益	15,830	17,000	+1,170

## 親会社株主に帰属する当期純利益



# 前中期経営計画の振り返り

## 当期純利益・1株当たり純利益



## 財務目標

	ROCET1 <sup>*1</sup>	ベース経費	CET1比率 <sup>*2</sup>
2025年度	15.2%	横ばいを維持 削減施策 △1,600億円	10.3%
目標	9.5%以上	2022年度比削減	10%程度

\*1 分母をCET1とする自己資本利益率。

\*2 銀行の自己資本の中核である普通株式等Tier1のリスクアセットに対する比率。

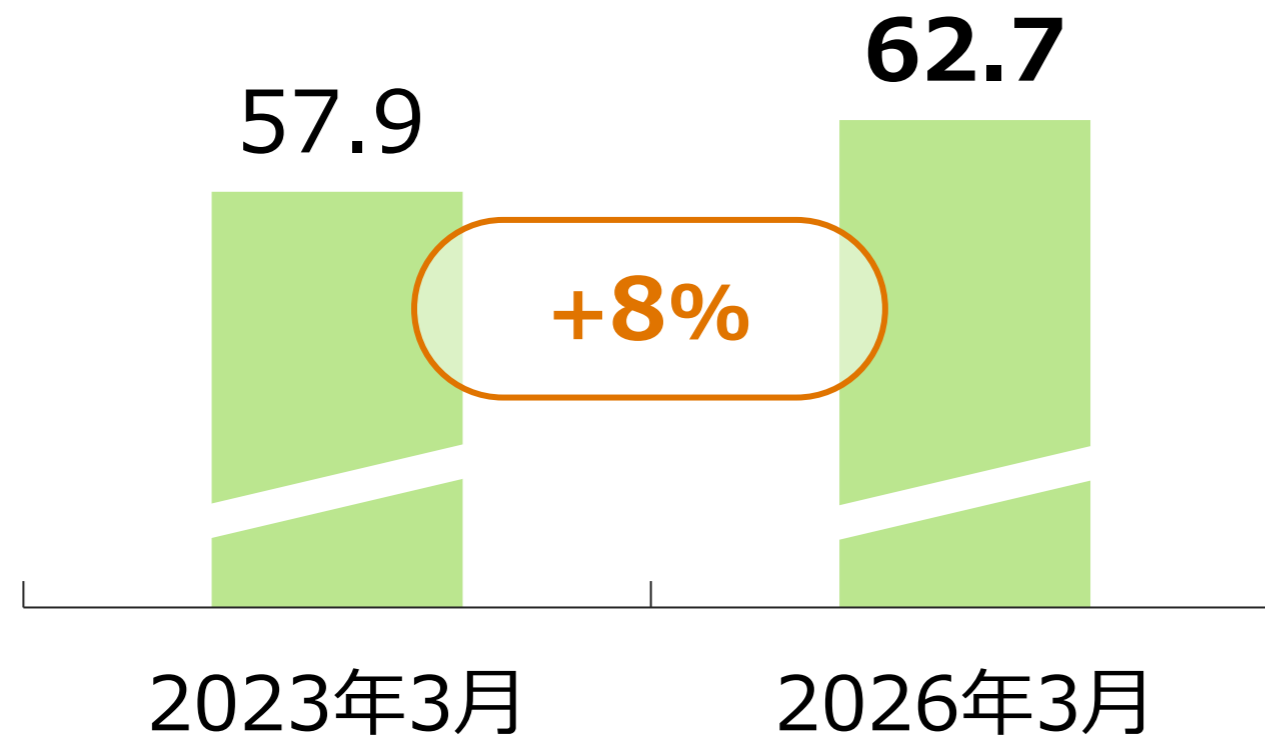
# 前中期経営計画の振り返り

## リテール

- グループ総合力を活かして、預金・クレジットカードで競合優位を拡大

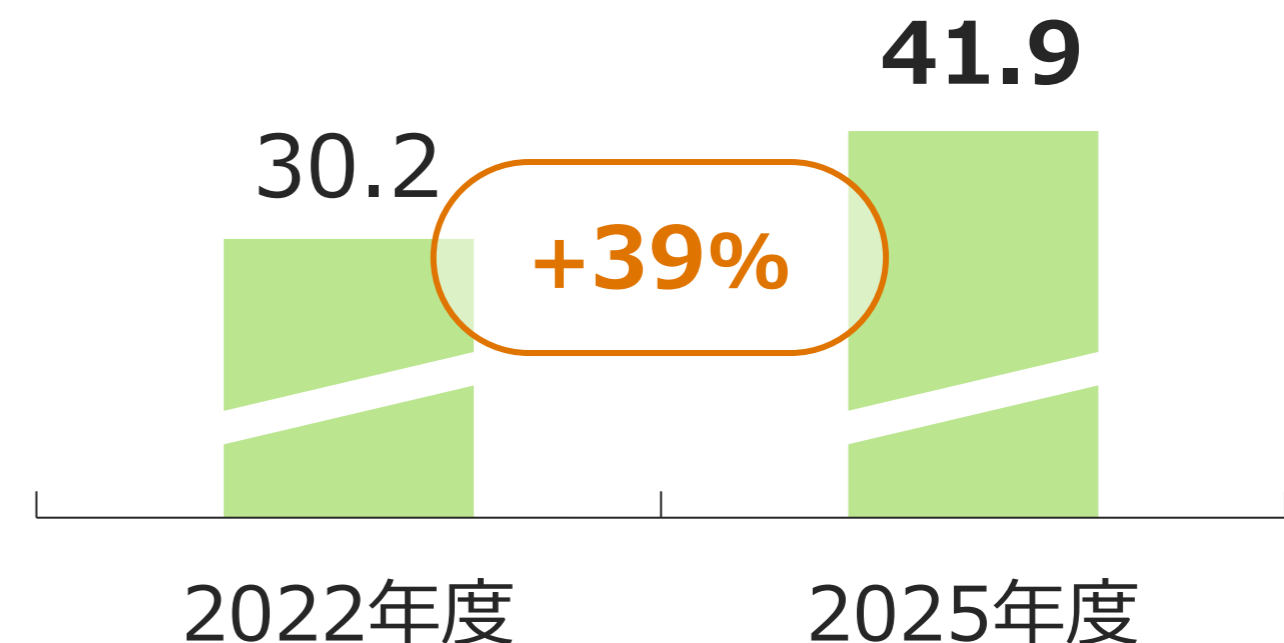
### 個人預金残高

(兆円)



### 買物取扱高

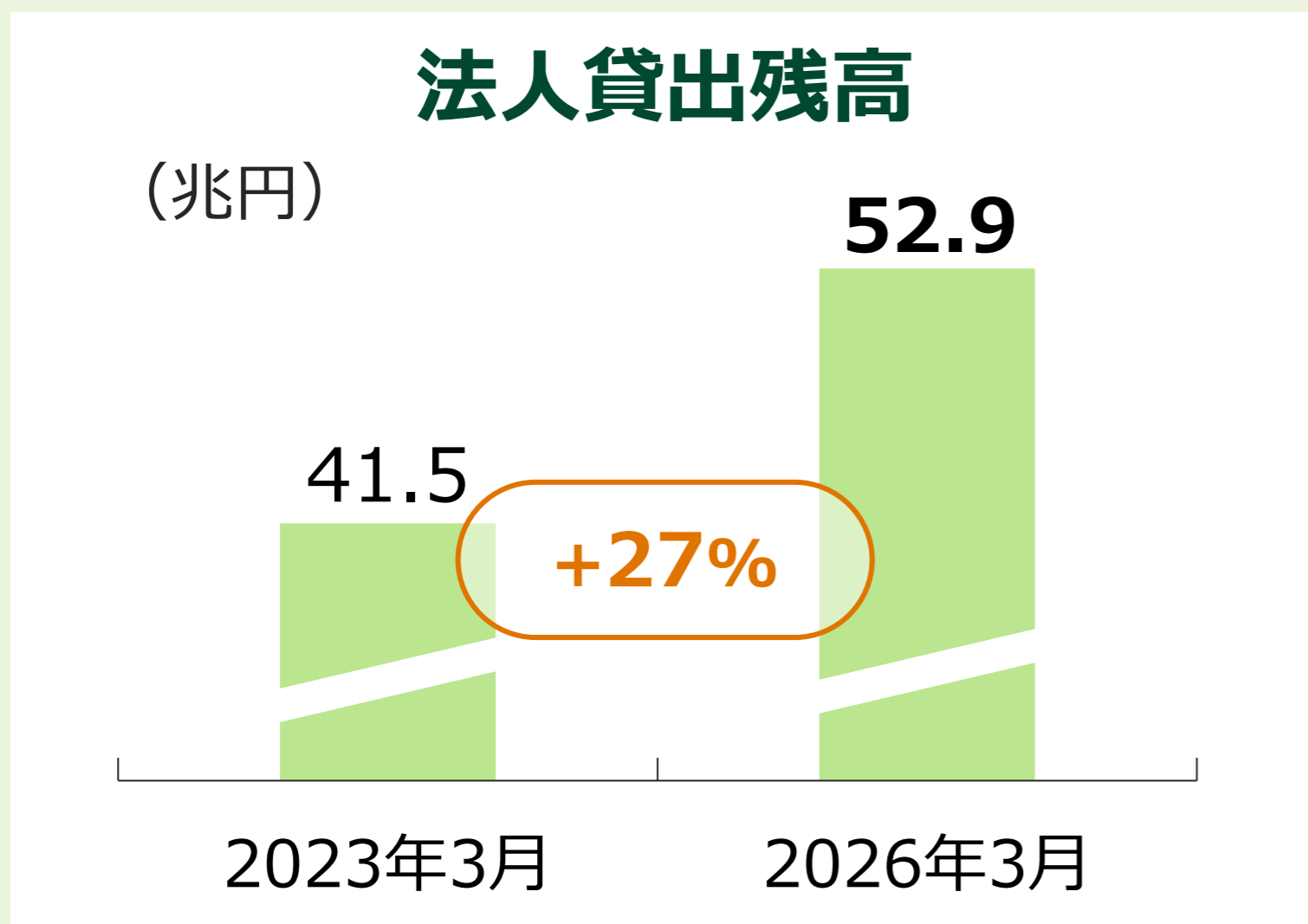
(兆円)



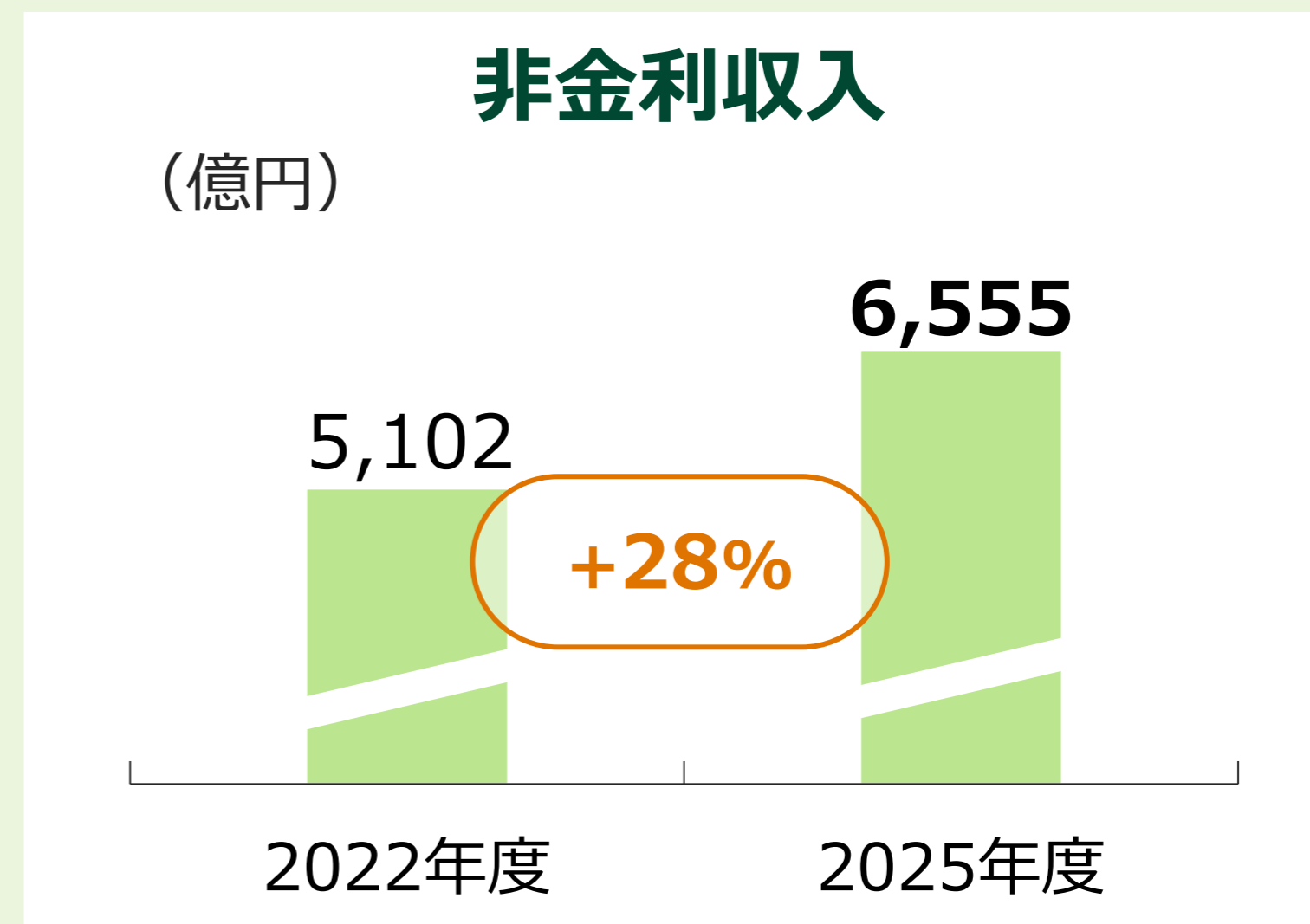
# 前中期経営計画の振り返り

## ホールセール

- 本業の貸出で大幅な成長を実現



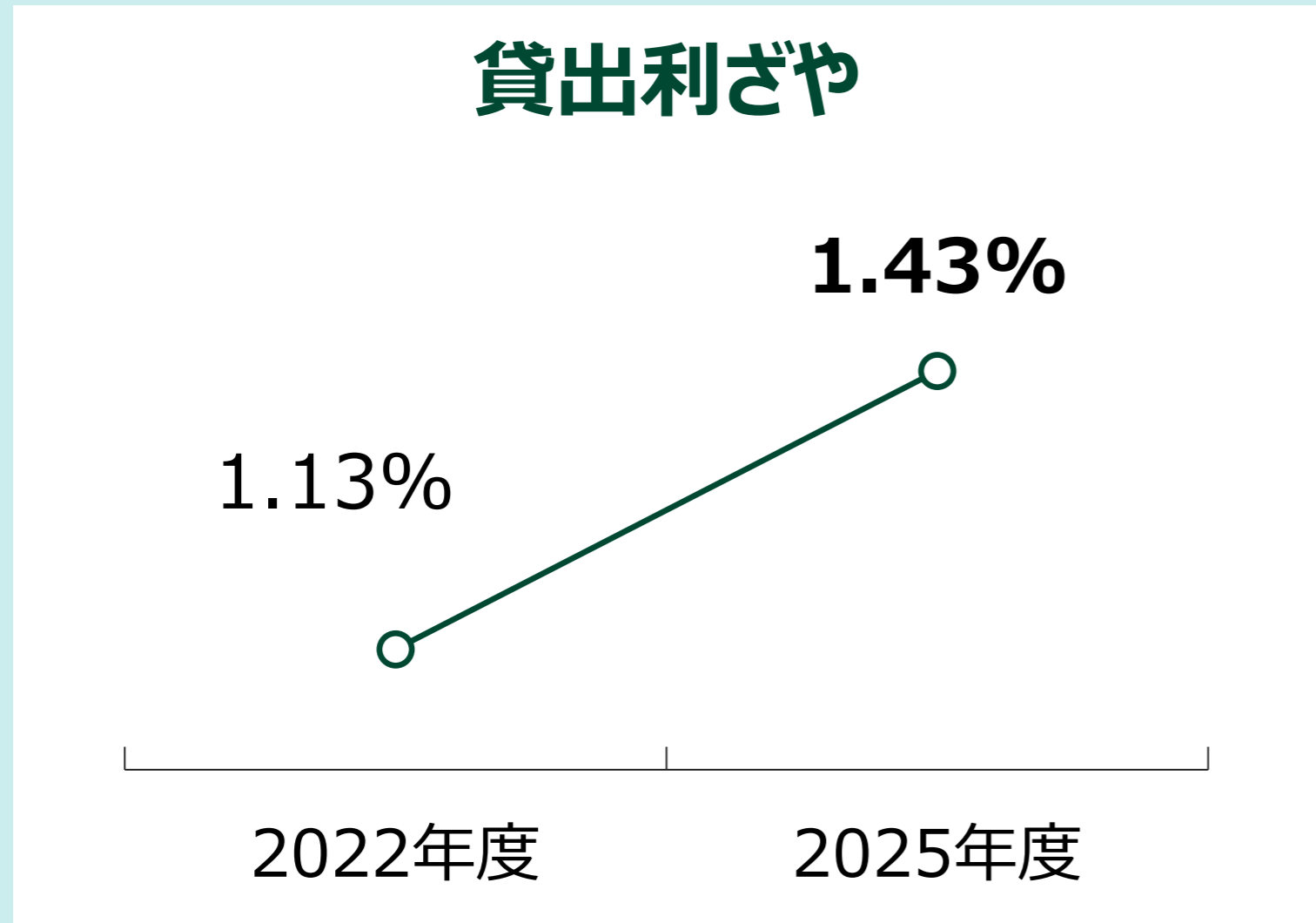
- 付帯取引の捕捉により手数料収入も増加



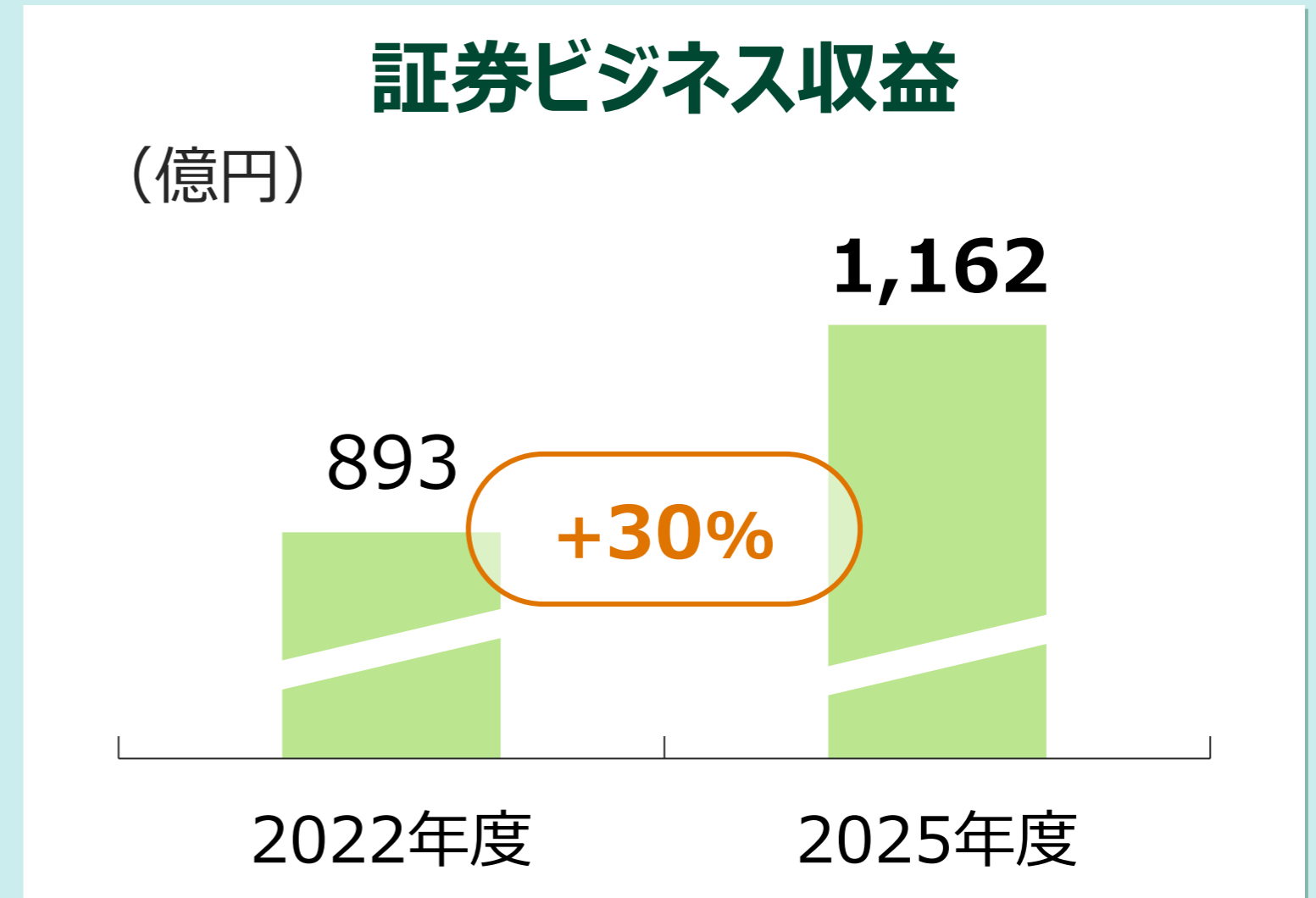
# 前中期経営計画の振り返り

## グローバル

- 低採算アセット削減で利ざや改善



- Jefferiesとの連携で証券ビジネスも成長



# 中長期的（5年後～）に目指す姿

新ビジョン

世界をつなぐ日本発のトラステッド・パートナー

Globally connected. Rooted in Japan. Your most trusted partner.

収益性  
ターゲット\*

ROTE\*

15%

+

親会社株主に帰属する  
当期純利益

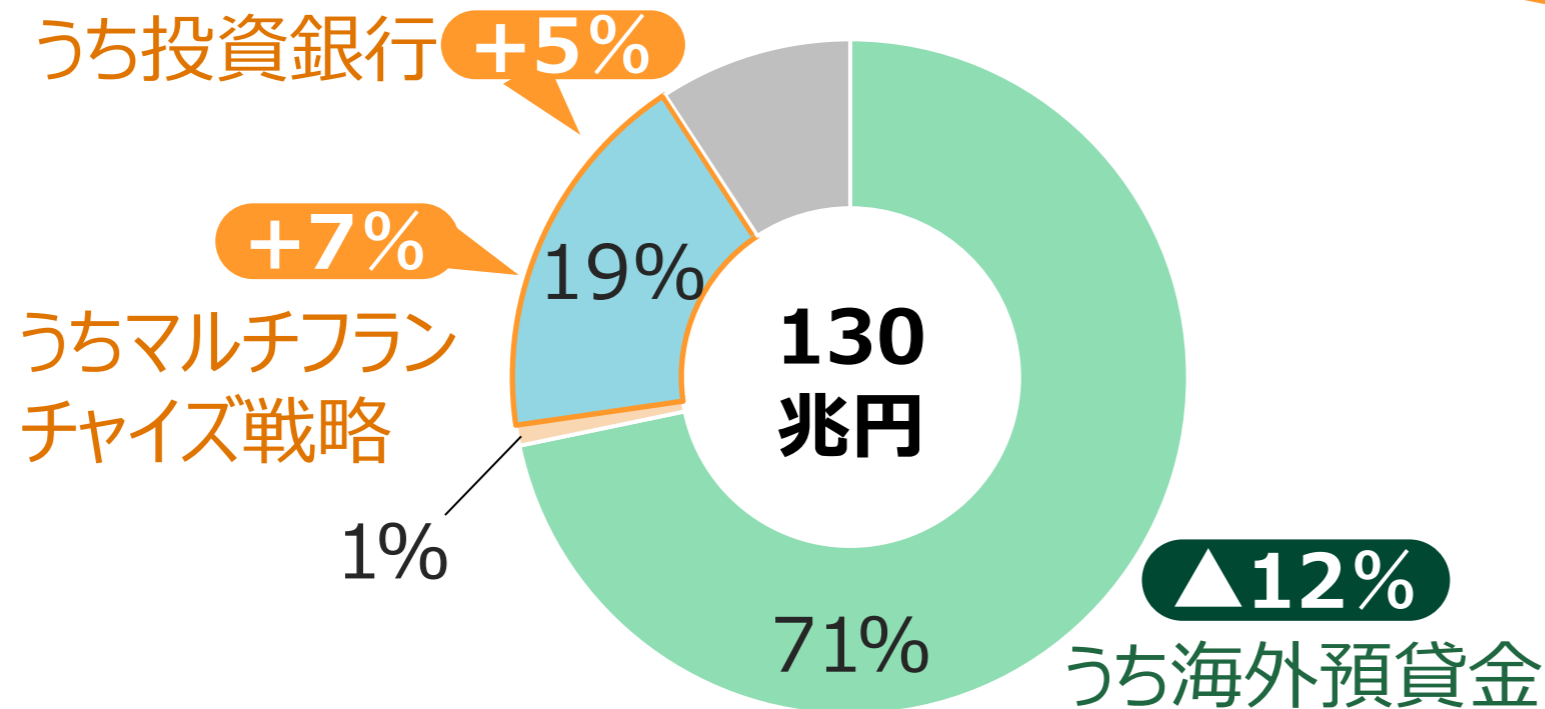
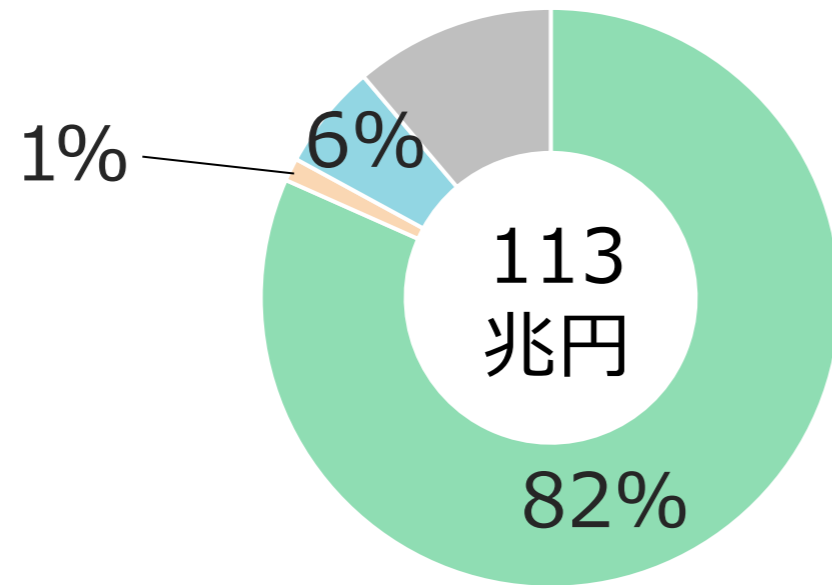
2兆円台半ば

\* 無形固定資産の影響を控除した有形自己資本利益率。分母は純資産から無形固定資産を控除し、分子は当期純利益に対してのれん償却費用を戻し入れたもの。

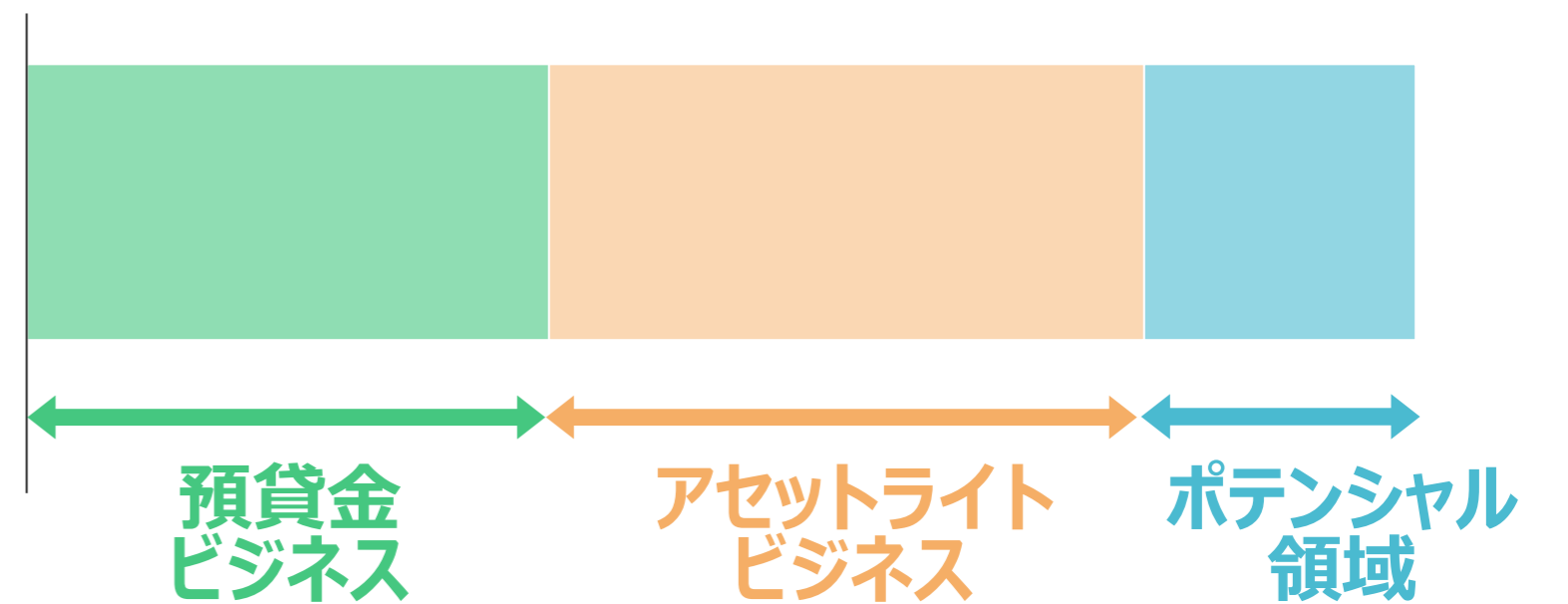
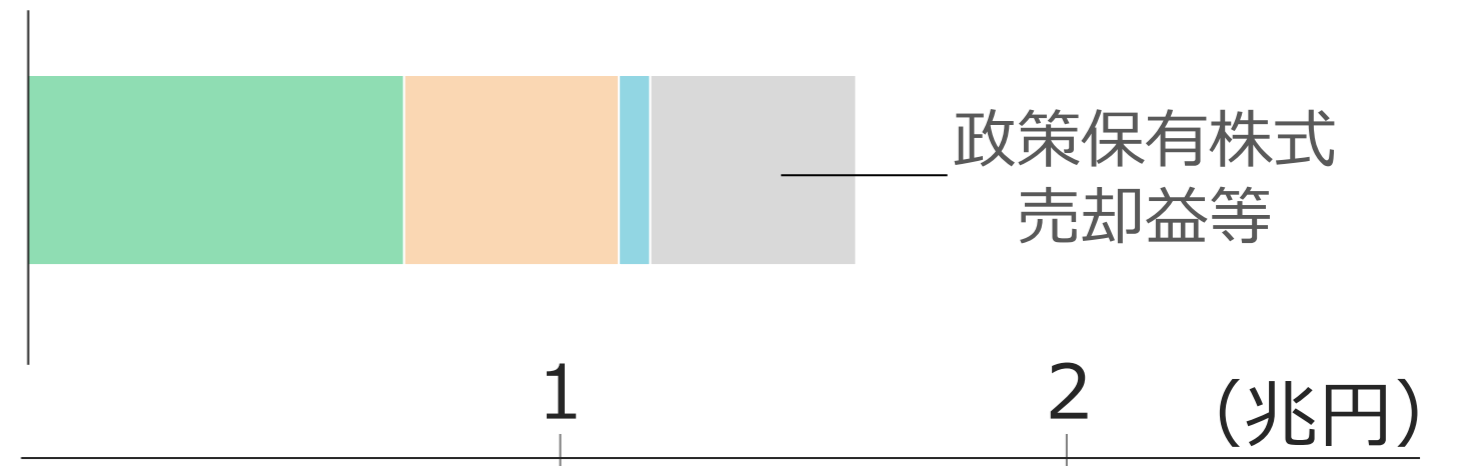
# ROTE15%実現に向けた事業ポートフォリオの変革

## リスクアセット

■ 預貸金ビジネス ■ アセットライトビジネス ■ ポテンシャル領域



## 当期純利益

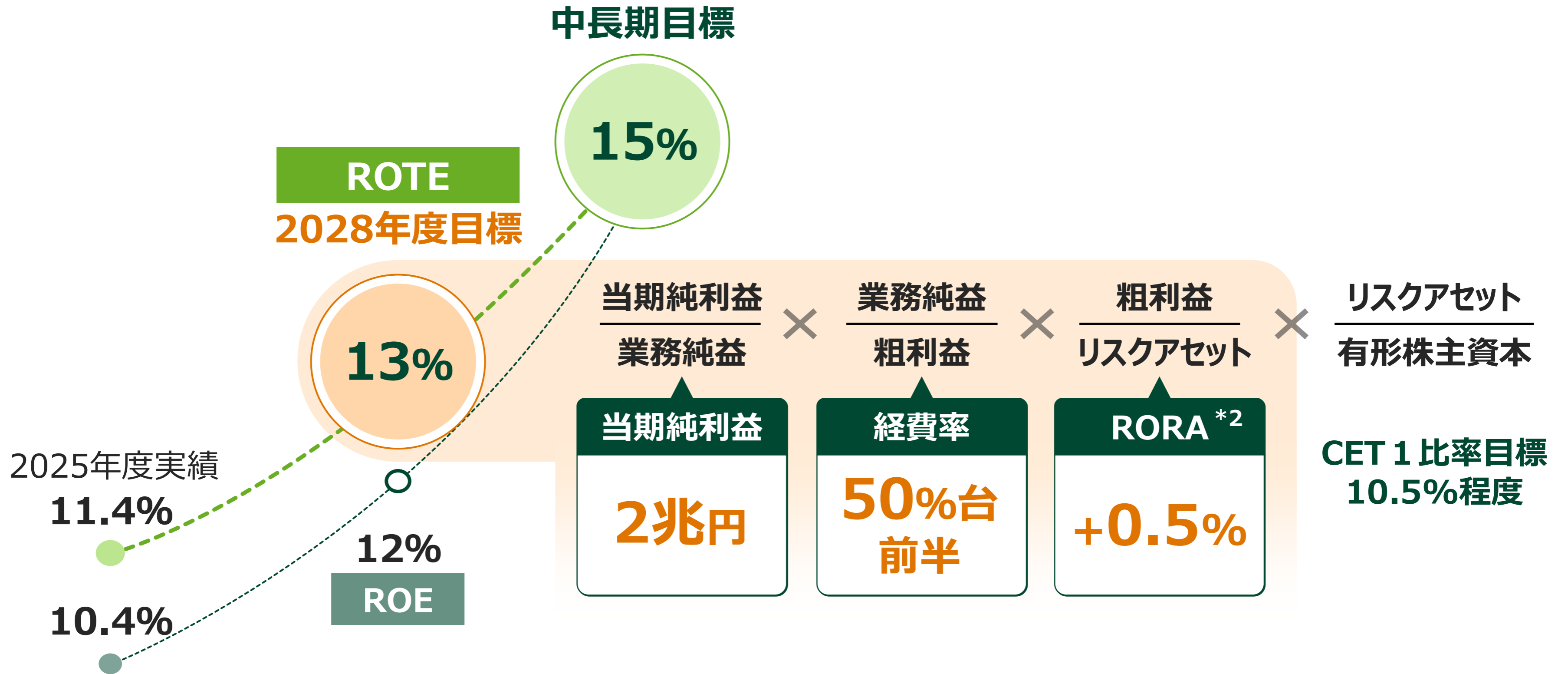


2025年度

中長期

\* 中長期の計画前提：政策金利（日本1.25%、米国3.0%）、1ドル=150円、政策保有株式の売却益は無し

# ROTE15%実現に向けた今後3年間の目標\*1



\*1 計画前提：政策金利（日本1.25%、米国3.0%）、1ドル=150円

\*2 Return on Risk-weighted Assetの略。リスクアセットに対する収益率。円金利上昇影響を除く。

# ビジネス機会と想定リスク

成長機会

脅威

ストレス局面

国内法人の旺盛な資金需要



投資家・ファンドの資金フローの変化



デジタルサービスの更なる浸透



テクノロジーによる金融ビジネスの変革



預金獲得競争の激化



経済減速による顧客アクティビティの減少  
一時的な信用コスト増加



地政学リスクの急速な高まり  
金融危機等の発生



# 3年間で私たちが達成したいこと

高みを目指して  
大胆な変革に  
チャレンジ

I 国内ビジネスでトップ

II 海外ビジネスの構造改革

III テクノロジーを経営の柱に

IV 現場力・戦略遂行力で差別化

V 社会的価値の取組高度化

事業戦略

経営基盤

# 7つの重点戦略領域

## 国内ビジネスでトップ

## 海外ビジネスの構造改革

### アセットマネジメント

ウェルス  
マネジメント  
ビジネス

国内法人  
ビジネス

CIB\*1・  
S&T\*2 ビジネス

アジア  
ビジネス

デジタルプラットフォーム

グローバル決済ビジネス

テクノロジー活用

### テクノロジーを経営の柱に

\*1 法人のお客さまに対し、商業銀行業務と投資銀行業務を一体的に展開するビジネスモデル。

\*2 事業法人や機関投資家のお客さまに対し、為替・債券・デリバティブ等の市場性商品を用いたソリューション提供を行う業務。

# 日本最大のデジタルプラットフォームの確立



## アカウント開設数

2025年度 **750万件** → 2028年度 **1,500万件**

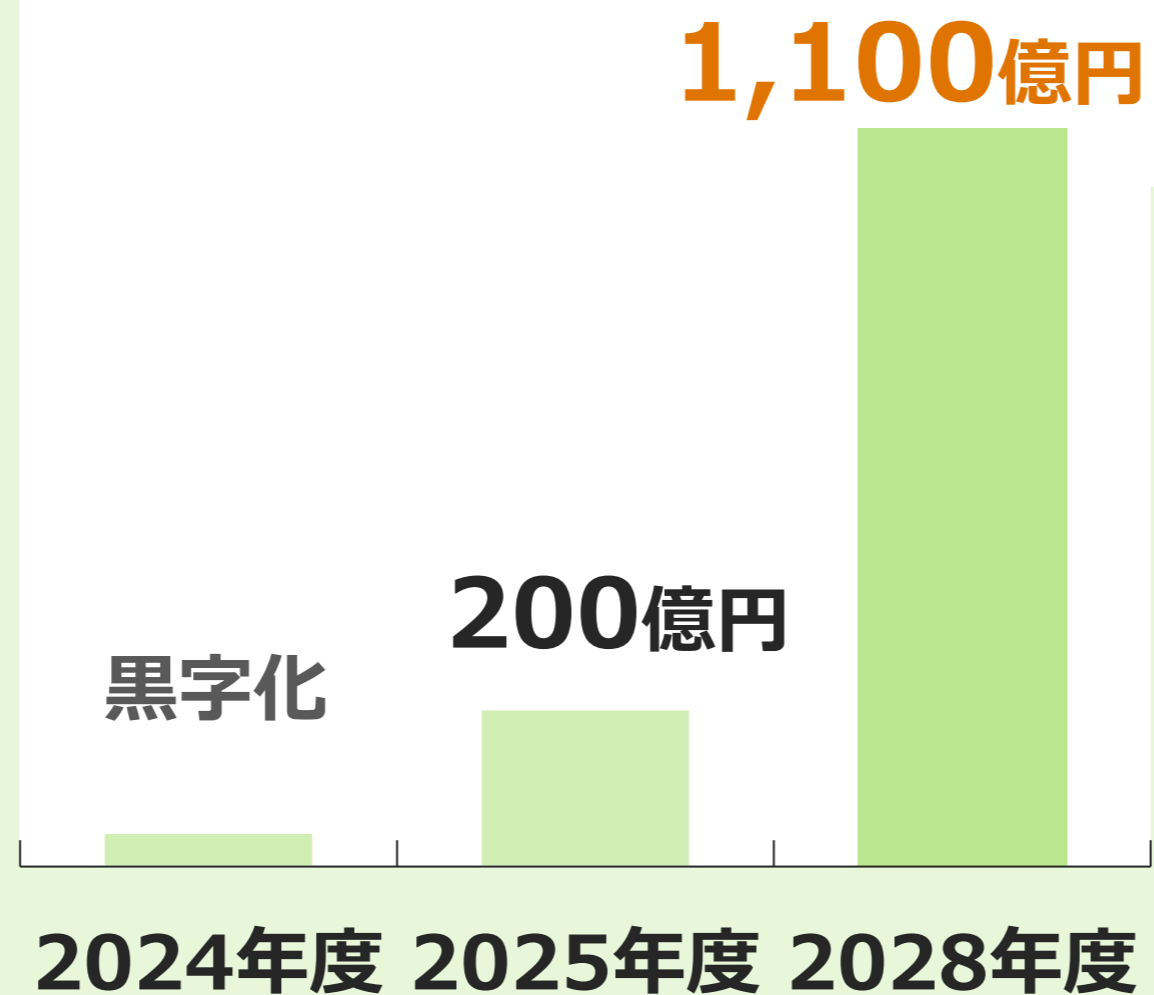


個人預金残高

買物取扱高

**増加**

## 収益イメージ（業務純益）



## 口座数 / 預金残高

2025年度 **5.4万口座** → 2028年度 **30万口座**

新設法人の  
**20%**が申込み

**3兆円**

# ウェルスマネジメントビジネスで国内最大の運用資産残高を目指す

## SMBC Wealth

### グループ一体での推進体制

#### 対面アプローチ

オーナー企業



専門的なソリューションを  
グループ一体で提供

資産家

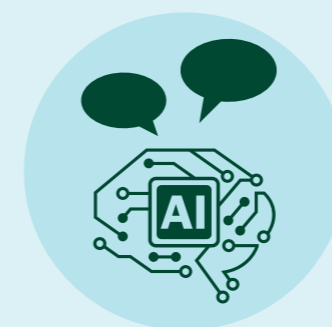


グループの商品を  
ワンストップで提案

#### デジタル活用

#### Oliveコンサルティング

アプリ上でデジタル資産運用サービスを提供



AIチャット



オンライン



対面

# 大企業・中堅企業・中小企業すべてでトップの競争力を確立

## グループ・グローバル連携による支援高度化

### 大企業

グローバル大企業への営業強化・大型案件捕捉

CIBビジネスの高度化

成長セクターへのリソース集中

### 中堅企業

証券ビジネスの強化

強固な顧客基盤の更なる深耕

### 中小企業

Good For Your Company's Days.



## 収益力の強化

### 強い現場力

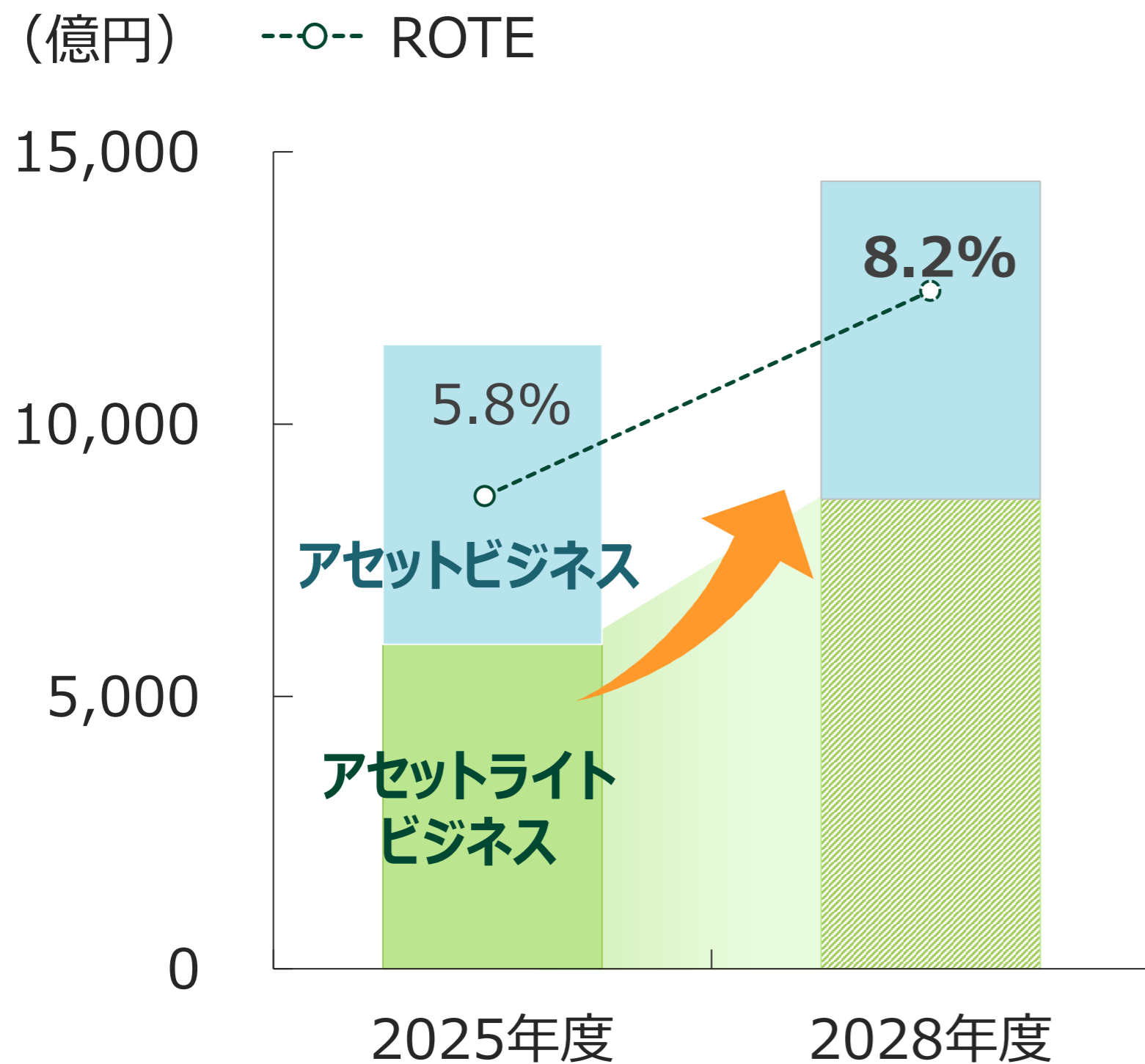
従業員1人当たり利益率の向上



AI活用による更なる高度化

# グローバルCIB/S&Tの強化

## グローバルCIB/S&T粗利益



事業ポートフォリオ入替を継続

Jefferiesとの協働

S&T強化

引受・資産回転ビジネスの強化

# Jefferiesとの協働

## 強みを融合した協働マーケティング

広範な顧客基盤

多様なファイナンシャル  
ソリューション

高度なセクター知見



## 日本株事業の統合（2027年1月～）

SMBC日興証券



Jefferies

発行体

国内大企業の大型・  
グローバルECM\*案件獲得

投資家

事業法人・機関投資家への  
プロダクト力強化

# マルチフランチャイズ戦略における成長投資の総仕上げ

## インド

外銀No.1の地位確立

大企業

中堅・中小

リテール

**SMBC**

業容拡大・  
フィービジネス強化

**YES BANK**

成長・収益力  
向上

**SMICC**

アセットクオリティ  
改善

資産規模  
民間6位

## インドネシア

預金取引拡大等による  
調達コストの改善

## ベトナム

個人・中小企業向け貸出の推進  
与信ポートフォリオの改善

## フィリピン

高採算貸出・預金獲得による  
収益力強化

# アセットマネジメントビジネスの強化

アクティブ運用の更なるプレゼンス向上

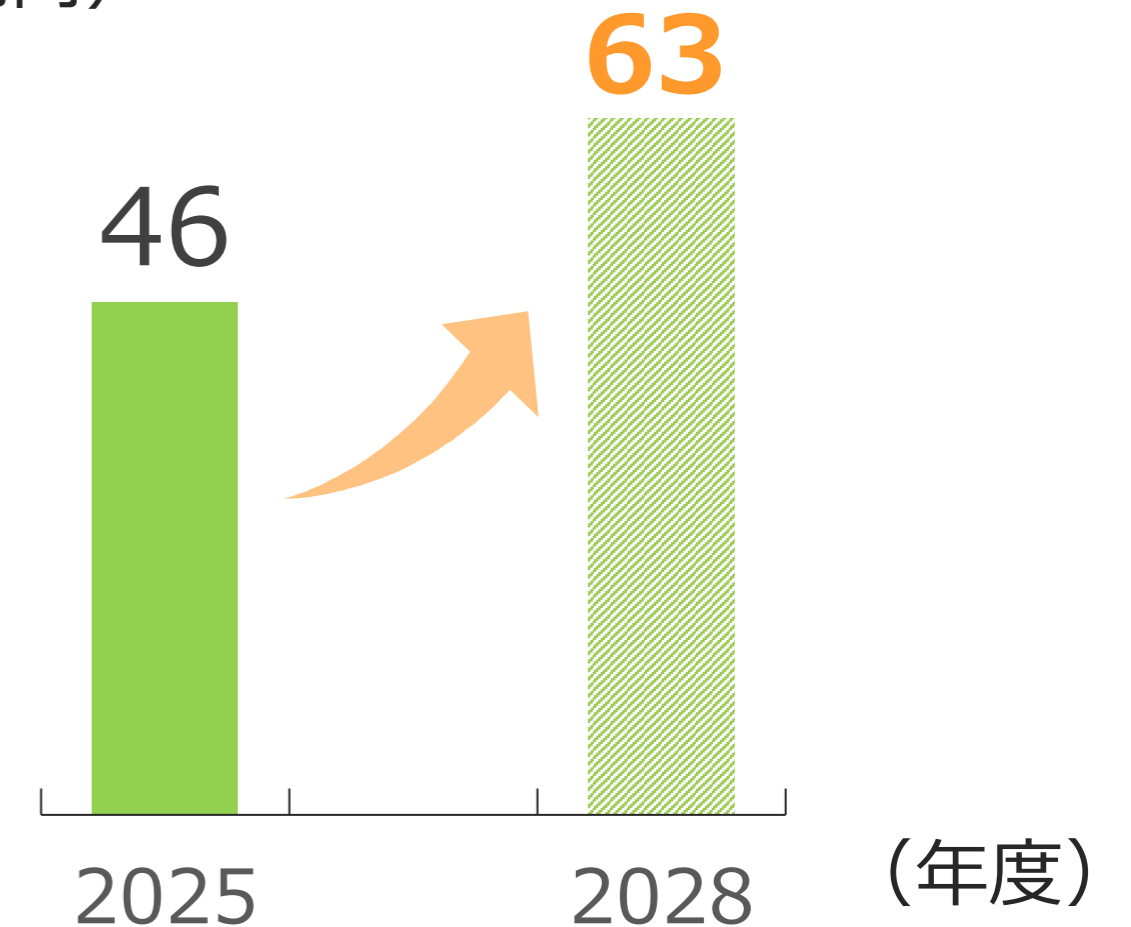
プライベートアセットビジネスの確立

SMBC PRIVATE MARKETS

アドバイザリービジネスの本格展開

## グループ運用資産残高

(兆円)



# グローバル決済ビジネスの本格成長

## SMBC Connect+

### 商品強化

キャッシュ・マネジメント・システムの刷新

### 人員増強

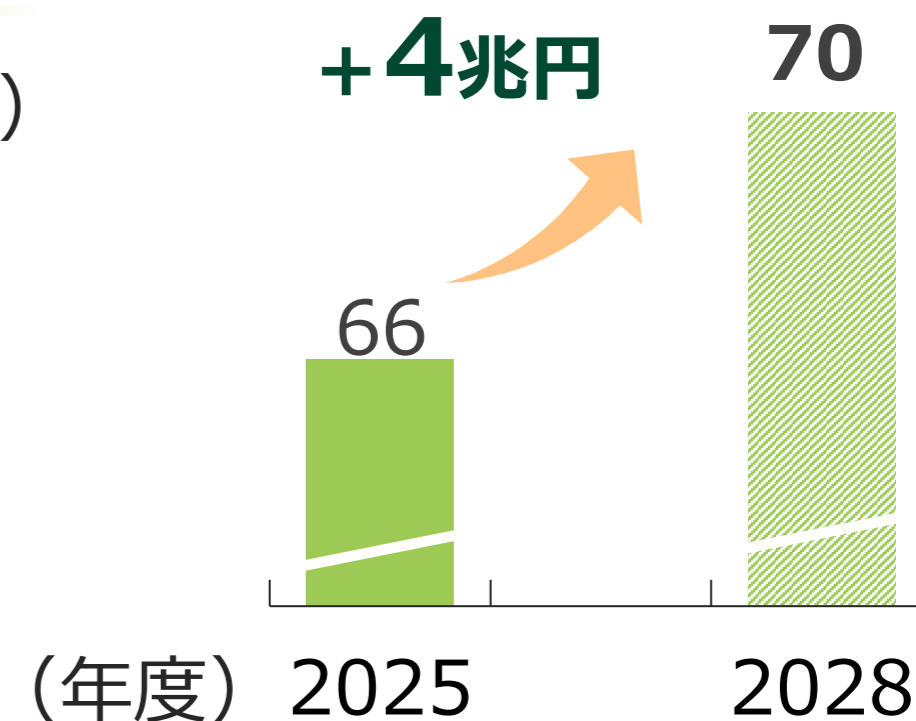
+200人

### クラウド・AI活用

新技術への対応力強化

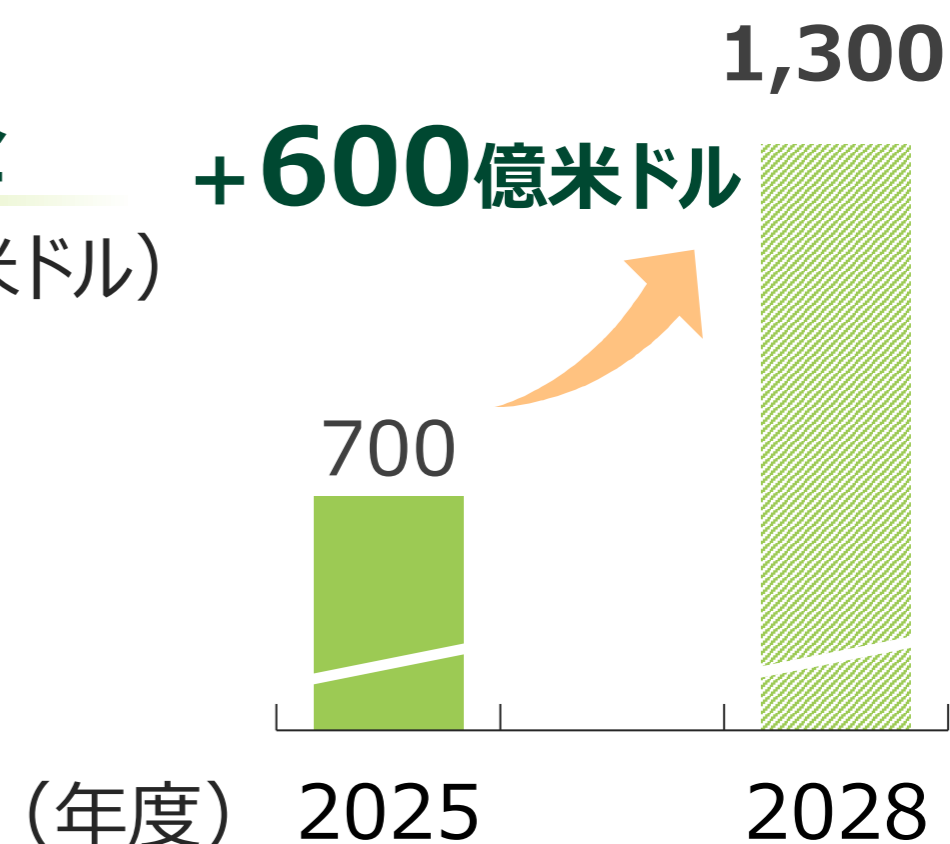
### 法人円預金

(兆円)



### 法人外貨流動性預金

(億米ドル)



# ITトランスフォーメーション

対顧客サービス進化

社内業務効率化・高度化

IT投資 **1兆円**

基盤・開発体制の強化

クラウド化

AI・クラウド  
人材増強

セキュリティ投資  
増強

パートナーシップ  
活用

# AIの活用

全社員がAIを使う会社となり、ビジネス・プロダクトを変革

投入 **1,000**億円

## カルチャー変革



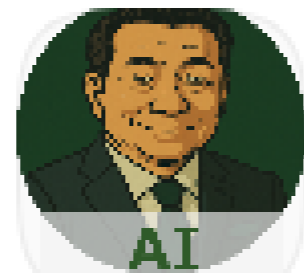
マネジメントも  
含む研修



Copilot  
グループベースで  
活用



頭取ハッカソン



AI-CEO

## ビジネス・プロダクトの変革

コンタクトセンターへのAI導入

CFO Agentの提供

提案書生成AI

# 成長を支える人的資本の強化

プロフェッショナル人材の確保と最適配置

パフォーマンスを最大限に引き出す評価・報酬

変化に強く、挑戦し続けるカルチャーの醸成

AI活用による人の価値の最大化

人的資本投資

2026年度  
前年比  
**+10%超**

# 本業を通じた社会的価値の創造



# キャピタルアロケーション（資本配分）の考え方

健全性

株主還元

配当

- 配当性向は40%
- 「每期増配」へ

自己株式取得

- より機動的に実施

成長投資

オーガニック

- 日本の再成長に貢献

IT投資

- 1兆円投入

インオーガニック

- 新規投入は抑制

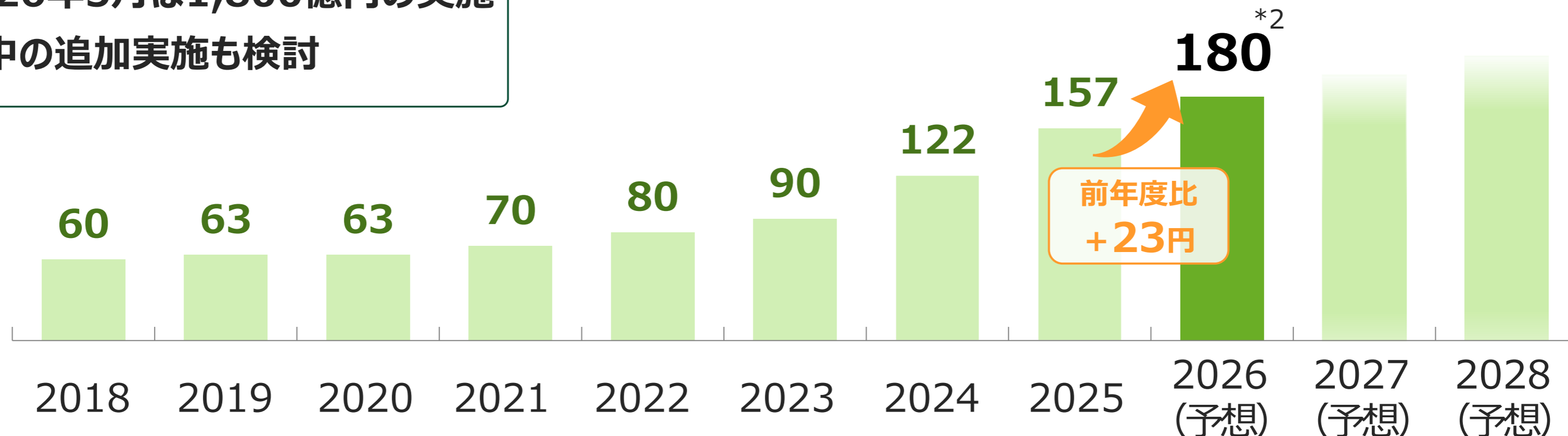
# 株主還元強化

## 株主還元

- 配当** 毎期増配にコミット
- 自己株式取得** 2026年5月は1,800億円の実施  
期中の追加実施も検討

■ 1株当たり配当金 (円) \*1

毎期増配 & 配当性向40%



自己株式取得 (億円)	700	1,000	-	-	1,387	2,113	2,500	2,500	1,800 +a	機動的に実施	
総還元性向 (%)	44	51	51	41	58	59	61	54	51 +a		

\*1 2024年10月1日付で実施した株式分割 (3分割) を踏まえ、過去に遡り調整した金額 (小数点以下は四捨五入)。

\*2 2026年10月1日付で実施予定の株式分割 (2分割) を実施後の金額は、90円。

# 投資しやすく、持ち続けたいくなる銘柄へ

## 株式分割

個人投資家が投資しやすい  
環境を整備

分割割合

1 対 2

## 株主優待

### I Vポイントの付与

保有株式数*	保有期間	付与ポイント
100株～	1年～	5,000pt
1,000株～	5年～	30,000pt

### II 定期預金金利上乘せ

円定期預金 3カ月物  
+年1.0%\*<sup>2</sup>

### III 協賛イベント等ご招待



\*1 初回基準日である2026年9月30日時点の株式数。2027年以降は2026年10月1日付で実施予定の上記株式分割を反映

\*2 税引後の上乘せ金利は+年0.79685%

